

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)
2	日	時 平成31年3月13日 午前9時30分から午前10時45分まで
3	会	場 安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室 西
4	出	席 者 安田大樹委員、東本優子委員、三澤育子委員、斎藤岳雄委員 久保田敏彦委員、中島完二委員、平川邦夫委員、宮澤貞仁委員 須澤佳正委員、池上洋助委員、丸山昌則委員 高橋正光委員、興智幸委員、清澤栄三委員
5	市側出席者	大向部長、大竹課長、齋藤係長、平田係長、中村係長、丸山補佐 板花係長、小林係長、佐々木
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成31年3月20日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

(1) 開会(大竹課長)

(2) あいさつ(大向農林部長)

(3) 協議事項

①市農業農村振興計画に係る平成29年度実施状況の点検・評価結果

(4) 閉会(大竹課長)

2 協議の概要

(3) 協議事項

□事務局説明

これまで出された意見を基に市農業農村振興計画に係る平成29年度実施状況の点検・評価結果(案)を作成したのでご意見をいただきたい。

<委員の主な意見>

【ブランド力の強化】

- ・ブランド、ジビエなど個々の案件について、それぞれに対する規制、制約等があり、現実的には実現不可能な感じを強く受ける。
- ・安曇野市で「特区」のような体制を形にしていくことは、大事だと思う。
- ・GAPを求めてくる業者は、ある程度のロット数を求めてくる人が多い。個人で対応するには登録料の割にメリットが少なく、踏み込めない人が多いという印象。
- ・GAPを取るような意識の高い農家は個人売りをしていく。JAにはGAPを取った農家の米は高く売れるから責任をもって作ってくれ、売り先はこちらで見つけるくらいの姿勢で取り組んで欲しい。売り先について検討して欲しい。
- ・GAPについて販売戦略の中で積極的に取り組みたいと考えている。
- ・「安曇野そば」のGI取得について、シナノ1号は在来種ではなく農水省から難しいと言われている。いったん取り下げ、もう一度構想を練り直す予定。

【荒廃農地対策について】

- ・堀金まで電気柵が設置され、以前に比べサルの被害が改善されてきている。烏川を挟んだ穂高側に電気柵がないため改善して欲しい。

- ・自然保護団体等と話し合いの場をもっていくことも必要ではないか。

【生産基盤整備について】

- ・りんご農地の荒廃を新規就農者が入植することで防いでいる現状である。既存の農業者と新規就農者が対立する事は好ましくない。安曇野市の方針でもある農村の景観を守るためにも共存が大切である。
- ・農地がそばに転換されるとアレルギー物質の混在問題から小麦作にすることは難しいと聞いている。

【米について】

- ・「風さやか」の栽培が、苗の供給や質と量の問題からなかなか波に乗れていない。他産地に比べ安曇野市は生産量が不足している。質を求める前に生産量を上げることに注力することで具体的な課題が見えてくると感じる。生産量が上がってきたら質で差別化したらどうか。

【その他】

- ・既存の農薬散布基準とは違う新しい試みが、農業の改善につながることも考えられる。県の「環境に優しい農産物」による第三者機関による検証確認に取り組むのはどうか。病気が減れば品質は自ずと一定になると思われる。
- ・6次産業化は資本金も必要となり簡単にはできない。加工技術を教え、試作する施設を紹介するため、どこの加工所にどういう機械があるということを情報提供してもらえればありがたい。

以上